

【授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等】

現代国際政治経済の諸問題を、政治学ではなく経済学の立場から議論する。扱うトピックスは、貿易政策の政治経済学（自由貿易擁護論の是非）、国際交渉・貿易協定の経済学的基礎、国際経済体制、地域経済統合、経済のグローバル化等である。グローバル化では、貿易のみならず労働移動・資本移動の自由化を含めて、その利点と問題等について論じる。講義全体において、できるだけ途上国側の視点にも触れていきたい。経済学の基礎的な知識があることは望ましいが、それを前提とはしない。なお貧困問題については国際政治経済論 2 で集中的に扱うので続けての受講を勧める。

【評価方法】 出席(30%)、授業参加 (10%)、リアクションペーパー (10%)、レポート (50%)

※受講生が 150 人を超えた場合、学期末レポートを学期末試験に変える可能性がある。初回または 2 回目の授業で決定する。

※今年度から 15 回分の授業出席が必要とのことで、学期中に幾つか講演会等を紹介するので、そのうち最低でもひとつ講演会等に参加し、その簡単なまとめを提出すること。

<教科書>特に定めない。

<参考書>

- ① クルグマン・オブズフェルド (石井・浦田・竹中他訳) (1996)『国際経済—理論と政策：I 国際貿易』第 3 版、新世社。
 (別訳) クルグマン・オブズフェルド著 (山本他訳) (2014)『クルグマンの国際経済学—理論と政策 (原著第 8 版) : 上巻 貿易編』、丸善出版。
 (原著) Krugman, P. R. , Obstfeld, M. and Melitz, M. (2014), *International Trade: Theory and Policy*, 10th Edition, Prentice Hall.
- ② 石川 城太・菊地 徹・椋 寛 (2013)『国際経済学をつかむ』第 2 版、有斐閣。
 →国際貿易論に焦点を当てた国際経済学の初級入門書。エッセンスを 8~10 ページの「ユニット」ごとにまとめ、数式をできる限り用いずに図や身近な具体例で丁寧に解説。IT や環境政策が貿易に与える影響、貿易政策の政治経済学など、最新かつホットなトピックも充実。
- ③クルグマン著 (山岡洋一訳) (2000)『良い経済学、悪い経済学』日経ビジネス人文庫 (Krugman, P., 1996 "Pop Internationalism," MIT press)。
 →「国と国が競争していると言うのは、危険な妄想であり、経済の基本原則が理解されていないことと、国内政策の怠りを誤魔化すために政治的に利用されているものであり、そのような意識が広がれば、国内政策を一層歪め、国際経済システムを脅かしかねない。」と政治家、官僚、マスコミ、経済評論家の中に蔓延している俗流国際経済論への批判したエッセイの集まり。
- ④矢野誠著 (2001)『ミクロ経済学の基礎』岩波書店。
- ⑤矢野誠著 (2001)『ミクロ経済学の応用』岩波書店。
 →経済学を基礎からきちんとやりたい人はこの本をまず読むことをお勧め。この続編として『ミクロ経済学の応用』もあるが、この 2 冊を熟読すれば、学部レベルの経済学のすべて、及び経済学的な考え方・センスの本質はほぼ修得できる。国際経済学の授業ではこれも用いる。
- ⑥Joseph Stiglitz and Andrew Charlton (2005) *Fair Trade For All; How Trade Can Promote Development*, Oxford University Press.(浦田秀次郎監訳、高遠裕子訳 [2007])

『フェアトレード：格差を生まない経済システム』日本経済新聞出版社。)

- ⑦Stiglitz (2002) *Globalization and its Discontents* (Ch.3,4 のみで十分か), ALLEN LANE(鈴木訳：『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』徳間書店：翻訳に難あり)。
- ⑧Joseph Stiglitz (2006) *Making Globalization Work*, W.W.Norton & Company, Inc.(榎井浩一訳 (2006) 『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店)
- ⑨Ha-Joon Chang (2011) *23 Things They Don't Tell You About Capitalism*, Penguin. (田村源二訳 (2010) 『世界経済を破綻させる 23 の嘘』徳間書店。)
- ⑩野村・大芝・納家・山田・長尾 (2007) 『国際政治経済学・入門[第3版]』有斐閣アルマ。
→標準的な国際政治経済学のテキスト (ただし政治学からの流れ)。
- ⑪下川雅嗣 (2007) 「経済学から見たグローバリゼーション」『コスモポリス』 1,63-69。
→下記 11-13 の項目を抜粋して要約したもの。
- ⑫下川雅嗣 (2012) 「国際政治経済学」(上智大学外国語学部国際関係副専攻編『新・国際関係論のすすめ』)

[授業計画] (スケジュール)

- 1.イントロダクション：国際政治経済学と経済学、経済・政治・文化→⑫、⑪、③
- 2.貿易政策と政治経済学Ⅰ：基本的理解→① (3版3章、8,10版4章)、②7章。
- 3.貿易政策と政治経済学Ⅱ：レントシーキング活動→① (8版9章、10版10章)、⑦1,3章、
- 4.貿易政策と政治経済学Ⅲ：自由貿易擁護論と反対論→① (3,10版10章、8版9章)、②6章、⑥ (特に2章)、⑦、⑧ (特に2章、3章)、⑨第7章。
- 5.国際交渉・国際貿易協定の経済学的基礎→① (3,10版10章、8版9章)。
- 6.国際交渉と国際経済体制(GATT⇒WTO)→① (3,10版10章、8版9章)、②8章、⑥ (特に3,4章)、⑧ (特に3章) ⑩ (特に、3,5章)
- 7.WTO における先進国と途上国の対立(関税引下以外)：農産物輸出補助金 (人間開発報告書 2003(8章)、2005 (4章)、⑥ (特に3,4章)、⑧ (特に3章)、) 知的財産権 TRIPS (⑥10章、⑧4章、大澤 (2011,12))、サービス貿易 GATS (②9章、⑥8章、補論1)、投資ルール TRIMs (⑥10章、補論2)
- 8.地域経済統合Ⅰ：差別的貿易協定→① (3,10版10章、8版9章)、②10章、他⑥、⑧
- 9.地域経済統合Ⅱ：世界の自由貿易協定→同上
- 10.地域経済統合Ⅲ：日本の自由貿易協定、まとめ→②10章他
- 11.グローバリゼーションⅠ：経済学の視点から見たグローバリゼーション、貿易→⑪、(⑥、⑧)
12. グローバリゼーションⅡ：労働移動、資本移動→⑪、① (3,8版7章)、②11章、⑥、⑧
13. グローバリゼーションⅢ：海外直接投資と多国籍企業→⑪、① (3,8版7章)、②11章、⑥、⑧
14. グローバリゼーションⅣ：地域経済学からの問題提起、集積の経済と不均等発展→① (3版8章)